

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長	米本 紀子	担当者名	富田 竹則
取組事例名 『 自己有用感の向上を目指して 』					
生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
自己有用感 説明力					
取組のねらい					
<p>○気になる生徒のサインを把握し，保護者や関係機関との連携を図る。</p> <p>○生徒会を中心とした集団づくりの取組の中で自己決定の場を設け，主体的に行動する態度の育成。</p> <p>○自己有用感の育成。</p>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>【教育相談の充実】</p> <p>○教職員による全員面談（部活動面談も実施）</p> <p>○不登校生徒のための相談室の開設</p> <p>○不登校生徒には週1回の家庭訪問を実施</p> <p>○毎月2回の教育相談委員会を開催</p> <p>○情報共有のためのデータ化</p> <p>【生徒主体の活動】</p> <p>○いじめ撲滅宣言の作成</p> <p>○専門委員会によるありがとう週間の実施</p> <p>○新しい行事の取組</p> <p>【自己有用感の育成】</p> <p>○アイスブレイクの実施</p>			<p>【教育相談の充実】</p> <p>・長期休業後に期間を決めて実施した。</p> <p>・客観的な資料としてアセスを活用した。</p> <p>・相談室の目的は教室復帰できるまでの一時的な場として活用。ルールを決めて実施した。</p> <p>・担任だけでなく，学年・生徒指導主事・SSWによる家庭訪問の実施。</p> <p>・SCやSSWも参加し関係機関との連携や保護者の困り感等から，短期・長期目標を作成した。</p> <p>・不登校生徒等の様子・家庭状況等，いつでも閲覧し加筆できる環境を整えた。</p> <p>【生徒主体の活動】</p> <p>・生徒会執行部が中心となり，いじめ撲滅宣言をクラス掲示し，放送で呼びかけを行った。</p> <p>・友だちの良いところをみんなで評価する。</p> <p>・学年行事で自己決定の場を設け，生徒が中心となって運営した。</p> <p>【自己有用感の育成】</p> <p>・毎週水曜日の帰りのHRで，班やクラス全体を使って実施している。マンネリ化を防ぐため，毎回の取組をSSWと検証しながら進めた。</p>		
取組の成果と課題					
<p>今年度，不登校の生徒数が13名と依然多いものの，今まで登校できなかった生徒が，相談室や校門まで登校できるようになるなど，これまでの本校の取組が実を結び始めている。更に，平成30年度「基礎・基本」で自己有用感は48.7%であったが，令和2年度12月「学校評価アンケート」で73%と大きく向上した。</p>					